

氏名 佐藤 裕之

ウパニシャッドの体系的解釈を基礎として、いわゆる梵我一如の一元思想の理論的整備と発展を図り、今日にその確たる伝統を残すヴェーダーンタ学は、特に8世紀のシャンカラ以降、現象世界の現前を認識者に内在する根本的無知に帰し、究極的実在は一切の差異相を越えたブラフマン／アートマンのみであるとする、不二一元論派 (Advaita 派) が主流をなしてきた。

本論文は、その不二一元論派の系譜に連なる17世紀の学者ダルマラージャが著した作品『ヴェーダーンタ・パリバーシャー』(以下 VPBh と略す) に展開する認識論の体系を、同書の第1章知覚章の綿密な読解作業を通して、解明しようとした意欲作である。元来、不二一元論派は、知覚や推理といった日常的な認識方法は、それ自体に矛盾をはらみ、究極実在の覚知に直接資することはないとの立場から、pramāṇa(認識手段=正しい知をもたらす手段・根拠=知覚・推理・信頼すべき言葉など)に関する議論に積極的に関与した形跡はないが、不二一元論派固有の pramāṇa論を提示した、ほとんど唯一の文献と言えるのが VPBh である。なかでも知覚 (pratyakṣa)に関する議論は同書における pramāṇa論の主要部をなし、最も難解な箇所とされてきたが、佐藤氏はその知覚論の部分、14種の刊本・7種の注釈、そして英訳・主要な研究書を精査し、かつ氏独自の批判的考察をも加えて解読した。

本論文は二部構成から成り、第1部では「ダルマラージャの認識論の構造解明」(pp. 13-142) がなされ、第2部は「VPBh 知覚章和訳研究」(pp. 144-225)であり、さらに付録として VPBh 全体のほぼ網羅的な Word index が付されている。本論にあたる第1部は、まず序章において VPBh 知覚章から、同書の認識論の基本構造のほぼすべてが集約された一節を手がかりとして、考察すべき諸問題を抽出・整理した上で、以下、第1～6章において順次、それらの問題点に解答を与えて、最終的に VPBh の認識論体系を明快な図式によって示すという、整然とした論述方法をとっている。

VPBhという作品の中心部分は、関連諸概念の定義であるが、佐藤氏は個々の定義文を構成する術語の意味と、術語間の関係を一つ一つ確定した上で、定義文全体の意味を考察し、最終的には定義文相互の有機関係を解析して、ダルマラージャの提示した不二一元論派の認識論の全体的な構造を、認識手段と認識結果との多因一果的因果関係、二種の直接知、および認識が孕む二種の直接性 (pratyakṣatva) という概念を軸として、ほぼ描き出すことに成功した。特に、ブラフマン／アートマンの本質としての純粹精神と規定される知覚知は、認識が認識自身を照らしだす作用としての、<認識それ自身に関わる直接性>を孕んだ広義の直接知であり、認識手段の種類を問わず、得られる認識はすべて自己光照作用をもつから、その意味では直接知となるということ、またこれに対して狭義の、あるいは本来の知覚知は、認識が孕むもう一つの直接性である<認識対象に関わる直接性>によるものであり、しかもこの狭義の知覚知が、同一関係の把握から成る直観知の場合は、感覚機能ではなくある種の文章に起因する場合があること、この二点を新知見として提示

した成果は、きわめて重要である。これによって、ウパニシャッドの聖典文（のみ）から得られる直観知が、日常的な認識方法としての知覚知（狭義）と基本的に同一の構造で説明されていることが明らかとなった。

第2部のVPBh 知覚章和訳研究は逐語訳というよりは、佐藤氏のテキスト理解を明確に示した意識であり、また暗黙の前提となる議論や、前後の脈略を丁寧に解説しており、全体的に簡潔な文体に豊富な意味が凝縮されたVPBhのような作品の翻訳としては、非常に有効な方法であり、これ自体が本研究のすぐれた成果の一部を成している。

本論文は、考察対象となったテキストが、不二一元論派の *pramāṇa* 論をまとめた形で論ずるほとんど唯一の文献であったことに起因して、内容理解に際して十分な文献上の根拠が得られず、未だ恣意的な概念理解にとどまっている箇所が若干残され、かつそれとも関連して再考すべき訳語の問題もある。しかし、VPBhの認識論の体系が全体として、ニヤーヤ学あるいはミーマンサー学の *pramāṇa* 論の諸概念を下地としつつも、不二一元論派特有の形而上学との連携・調和が図られている点を、着実な資料解読をベースとして、十分な説得力をもって明らかにした本研究の意義は大きく、今後の *pramāṇa* 研究ないしヴェーダーンタ研究に新たな方向性を示唆していると言えよう。

以上の理由により、本論文が博士（文学）の学位を授与するにふさわしい業績であると審査委員会は判断する。